

東北大学災害科学国際研究所シンポジウム
東日本大震災から10年とこれから

総括と閉会あいさつ

2021年3月7日

東北大学 災害科学国際研究所

副研究所長・教授

丸谷 浩明

気仙沼市長 菅原様

- ビジュアル化の進化、精度の向上、事前復興、自然への畏怖畏敬の念の涵養

ジャーナリスト 飯田様

- 一人ひとりの日常を幸せにする研究所に

名城大学 溝口教授

- スペシャリストのバランスの取れた連携

将来に向けた災害科学国際研究所の取組のキーワード

- ◆ 東日本大震災の教訓を基盤にする
- ◆ 近年、激甚化・複雑化している災害へ対応する
- ◆ 複合する災害リスクの評価・低減。新感染症への対応も含む
- ◆ 文・理・医の融合の研究理念を継承
- ◆ 実践的防災学の「新たな学理の探求」と「社会連携・防災実践」の両輪を機能させる



災害レジリエンスに関する学際的な研究の重要性

東北大学

社会のニーズ

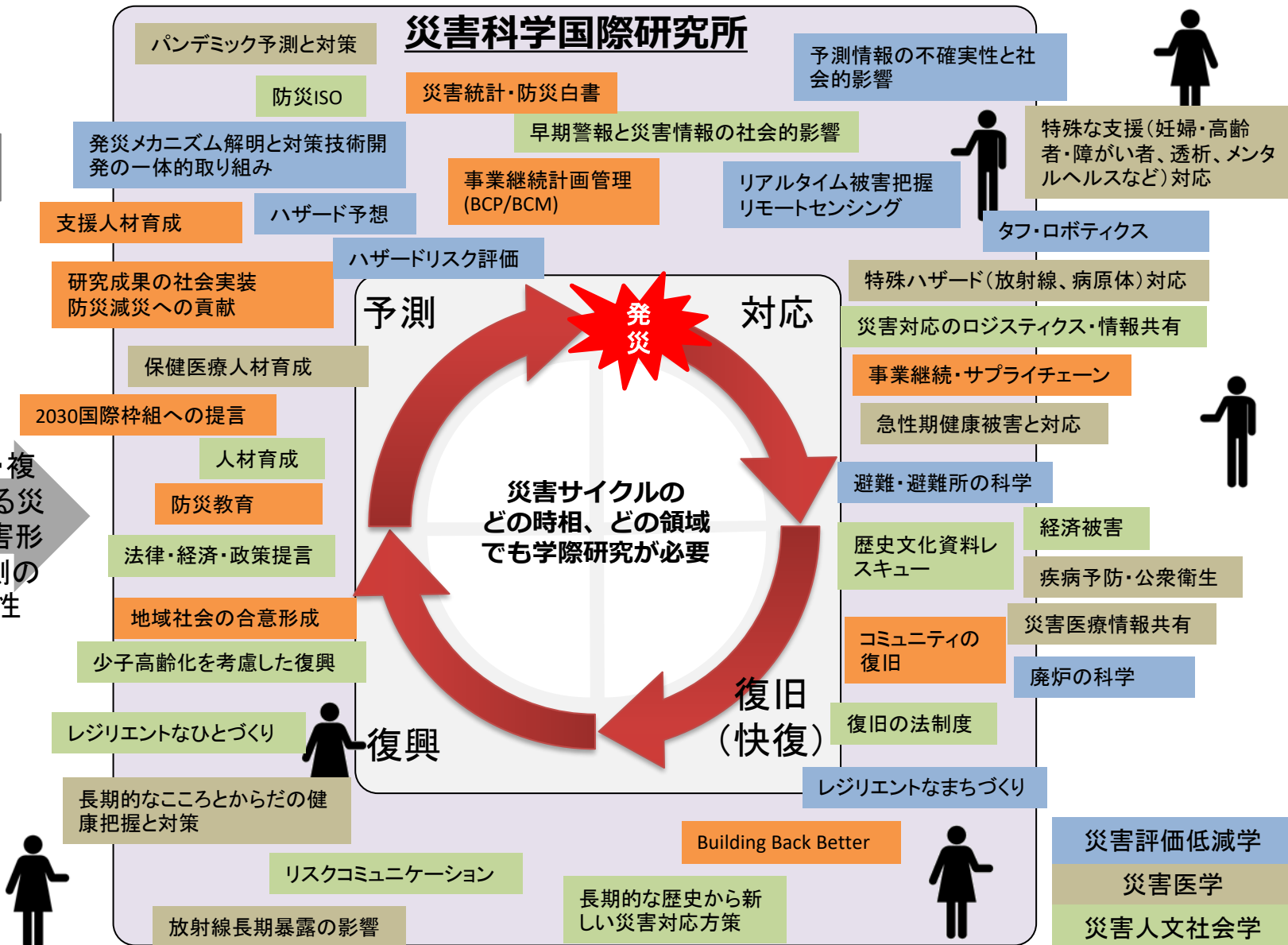
南海トラフ地震、津波災害、首都直下地震

気候変動に伴い頻発化、激甚化する水害

災害と新型感染症

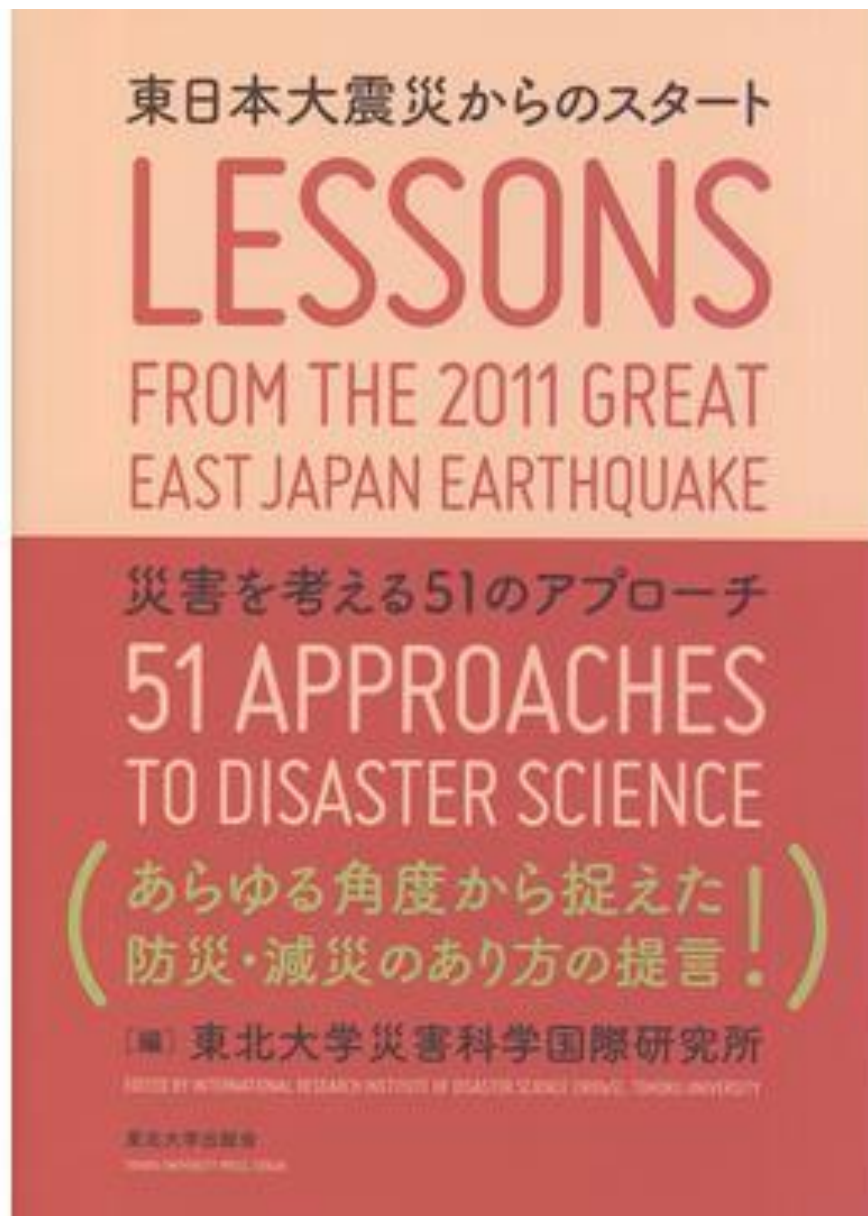
激甚化・複雑化する災害と被害形態、予測の不確実性

災害科学国際研究所





当研究所の震災10年の出版物は



51人の災害研の
研究者が分担執筆
した「新書籍」

発行日：

2021年3月11日

東北大学出版会

¥3,000＋税

東北大学災害科学国際研究所シンポジウム
東日本大震災から10年とこれから

ご来場、ご視聴、
ありがとうございました